

# 関東大震災の大規模土砂災害地点を歩く



## ～石川町駅周辺の大丸谷～

大丸谷境界は急傾斜地、急坂や階段が多い街です

2026年4月16日(木)

【1】防災まちづくり談義の会 横浜まち歩き

開催時刻・場所 9:30~12:00 (現地解説・質疑含む) 屋外現地(横浜市 山手周辺)

集合場所 JR石川町駅南口 開催形式 現地フィールドワーク(まち歩き/巡検)

講師: 相原 延光 氏

(参加費: 500円 保険料含む)

プロフィール 1950年横浜市南区生まれ。横浜国大教育学部地学科卒。  
教職歴48年。現 関東学院中学校高等学校 地学部コーチ。



【2】定例会: 14:00~16:00 (横浜まち歩き後 定例会場へ移動)

場所: 県民センター10階 ボランティアサロン(予約済)

住所: 〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

**講演要旨** 1923年9月に西野芳之助(横浜の写真家)が撮影した関東大震災ガラス乾板写真は、その鮮明さから震災当時の建造物の存在や災害の惨状を知ることができる貴重な非文字資料である。特に、横浜山手と石川町の間にある大丸谷では大規模盛土工事が行われていた。JR石川町駅南口周辺には今でも被災当時の道が通学路に使われていて、復興時に補修し残されている遺構や新たな建造物を確認でき、歴史を知ることができる。擁壁に使用されている石材や地盤地質情報を参考にしながら現地を歩き、事前防災対策を考えてみたい。

大丸谷震災地蔵尊の由来碑  
一九二三年(大正十二年)九月一日午前十一時五十八分関東全域にわたって大被害をもたらした関東大震災は震源地を相模湾の北西隅あたりの海底と推測され、北海道沖縄にいたる地域でも人体に感じ、全世界の地震計に記録をとられ、死者九九、三三一名、負傷者一〇三、七三三名、行方不明者四三、四七六名の大地震であった。当時此の附近一帯は各所より発生した大火災により一面火の海となり避難民は高台(十三番)の安全地帯を求めて大丸谷道路上を山に向かって殺到した。其の約約三百名、然し下方より吹き上がる火焔は物凄く道路上は忽ち灼熱の地獄と化し前進をはどまれ止むなく右手の崖を草の根につかまりつゝ我先にと登り始めたが後続の避難民は火焔にあおられ熱さに耐えかね、つゞじの灌木の中に身を伏せこらえたが後方よりせまる火勢の猛威には抗しきれず、ついに二十七名が二度と帰らぬ犠牲者となった。  
震災五拾周年にあたり再き人命を失った方々の霊にたいして改めて冥福を捧げるものであります。  
昭和四十八年九月一日  
石川町若丁目内会



写真の説明: 左) 大丸谷坂下の震災地蔵尊(黄色↑)、右) 修復されたブラフ積み擁壁

**開催趣旨** 関東大震災から100年を超える時を経て、被害の実像を地域の備えに生かす取り組みが求められています。横浜に甚大な被害をもたらしたこの震災の痕跡を、写真資料と地形・地質の視点から読み解くため、長年にわたり被災地調査と防災まち歩きを続けてこられた相原延光氏を講師に迎え、横浜山手～石川町周辺(大丸谷を含む)を歩きながら、過去の災害から現在の事前防災を考えます。(塾長)

主催 「防災塾・だるま」(ホームページ) <http://bosaijuku-daruma.com/>

対象 本会会員・一般 受講料無料

(2025年6月1日よりHP移設しました)

申込は下記記載。Zoom参加は定例会のみ。(資料の内容は、HPでほぼ参照できます)

●「防災塾・だるま」第212回 防災まちづくり談義の会 (保険加入のため住所・氏名・年齢・生年月日必要)

●申込みフォーム <https://forms.gle/qNUDSL96XUYsoD76> 会員も申込・先着順・急坂階段あり

次回: 2026年5月21日(木) 通常総会 13:30~14:45

第213回防災まちづくり談義の会 15:00~16:30

基調講演: 廣井 悠氏 東京大学 先端科学技術研究センター教授/総務省消防庁「防災まちづくり大賞」選定委員  
テーマ: 「都市防災対策の未解決仮題を考える」(仮題) 編集 田中喜世美